Tanseisha

証券コード:9743

第69期 中間株主通信

2026年2月1日～2026年7月31日



セイコーウオッチ株式会社 Watches and Wonders Geneva 2026 Grand Seiko

To Our Shareholders

株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、
厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 小林 統

■上半期を振り返って

当中間連結会計期間（2026年２月１日～2026年７月31日）における我が国経済は、中東情勢をはじめとする国際情勢悪化による不透明感がみられたものの、個人消費や設備投資が持ち直し、景気が緩やかに回復するなかで推移しました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましては、活発な企業の販促投資、インバウンド関連需要から、総じて堅調な状況が続きました。しかしながら、物価上昇や人件費の増加等によるコスト上昇リスクについても、注視する必要があります。

このような状況のもと当社グループは、中期経営計画（2025年１月期～2027年１月期）に基づき、成長軌道に乗せるための基盤整備と新たな領域への投資を行い、更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。この結果、前年同期には大阪・関西万博関連の売上を計上したこともあり、当中間連結会計期間の売上高は、483億92百万円（前年同期比13.7％減）となり、営業利益は33億42百万円（前年同期比40.5％減）、経常利益は34億20百万円（前年同期比39.7％減）、親会社株主に帰属する中間純利益は23億33百万円（前年同期比39.1％減）となりました。また、当中間連結会計期間の受注高は487億94百万円（前年同期比6.5％減）となりました。

■通期の見通し

足元の環境については、米国の通商政策や国際情勢の緊迫化、物価高の長期化による消費者マインドの悪化や資源・原料高に伴う建設コストの上昇、深刻な人手不足による供給制約など、景気の下振れリスクには引き続き注視が必要です。

一方で、各種政策の効果に加え、インバウンドの拡大を追い風とした需要は想定以上に好調であり、関連施設の設備投資拡大、各都市の再開発プロジェクト、スタジアム・アリーナ等の新改装需要などを背景に、今後の需要も堅調かつ緩やかな回復が期待されます。

上述の経営環境を踏まえ、当社グループは、中期経営計画（2025年１月期～2027年１月期）の最終年度の目標値を上方修正いたしました。堅調な経済環境下での着実な事業成長を実現するとともに、働く環境の改善やマーケティングの仕組みづくりなどの重要課題への対処をはじめ、より長期的に、持続的に成長していくための基盤整備に注力してまいります。さらに、「空間づくり」の可能性を拡げるため、新規事業など、新たな領域への挑戦をしてまいります。

当社グループは、経営上重視すべき指標を連結ROEおよび連結営業利益率としており、中期経営計画期間（2025年１月期～2027年１月期）の目標値としては連結ROE14.7%、連結営業利益率7.5%を掲げております。また、還元目標については配当性向50.0%以上を目標としております。次期中期経営計画期間（2028年１月期～2030年１月期）については、配当方針の指標にDOE（連結株主資本配当率）を追加し、連結配当性向50%またはDOE８％のいずれか高い方を下限といたします。なお、2027年１月期通期の連結業績予想につきましては、概ね順調に推移しているため、前回の予想から変更はありません。

（百万円）

売上高	営業利益	連結営業利益率（%）	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	連結ROE（%）
2025年1月期 実績					
91,858	5,147	5.6	5,316	3,875	11.9
2026年1月期 実績					
107,222	8,358	7.8	8,336	5,993	16.9
2027年1月期 計画					
107,000	8,000	7.5	8,100	5,700	14.7

■配当金について

当期の中間配当金は、１株あたり36円とさせていただきました。また、期末配当金は、１株あたり44円（内、創業80周年記念配当８円）を予定しており、年間配当金は、１株あたり80円となる見込みです。 株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Segment Review セグメント別概況

商業その他施設事業

連結売上高 295億22百万円（前年同四半期比 26.4%減）

セグメント利益 17億57百万円（前年同四半期比 65.0%減）

商業その他施設事業においては、前年同期の大型案件（大阪・関西万博）が一巡した反動により、売上高、セグメント利益ともに前年同期を下回ったものの、ホテル・駅ビル・空港施設・スタジアム等の需要は堅調に推移しました。
この結果、商業その他施設事業の売上高は295億22百万円（前年同期比26.4％減）、セグメント利益は17億57百万円（前年同期比65.0％減）となりました。



キャナルシティ博多 ラーメンスタジアム RAUMEN STADIUM

チェーンストア事業

連結売上高 137億43百万円（前年同四半期比 15.6%増）

セグメント利益 14億29百万円（前年同四半期比 63.4%増）

チェーンストア事業においては、主に飲食店や専門店分野の新改装案件が増加し、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。
この結果、チェーンストア事業の売上高は137億43百万円（前年同期比15.6％増）、セグメント利益は14億29百万円（前年同期比63.4％増）となりました。



ロイヤルホスト板橋店

文化施設事業

連結売上高 48億75百万円（前年同四半期比 28.2%増）

セグメント利益 35百万円（前年同期は3億83百万円のセグメント損失）

文化施設事業においては、主に博物館・企業ミュージアム等の案件が増加したこと等から、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。
この結果、文化施設事業の売上高は48億75百万円（前年同期比28.2％増）、セグメント利益は35百万円（前年同期は３億83百万円のセグメント損失）となりました。



千葉市立郷土博物館

その他

連結売上高 2億51百万円（前年同四半期比 1.5%増）

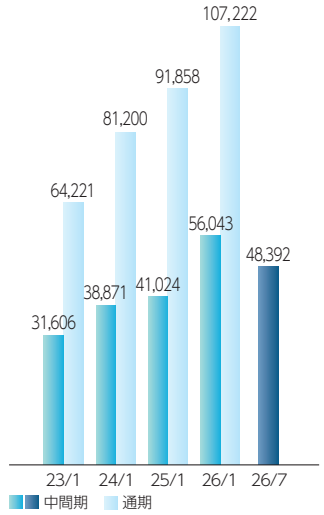
セグメント利益 1億14百万円（前年同四半期比 21.9%増）

その他においては、ディスプレイ業以外の事務サービス等は、堅調に推移し、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。
この結果、その他の売上高は２億51百万円（前年同期比1.5％増）、セグメント利益は１億14百万円（前年同期比21.9％増）となりました。

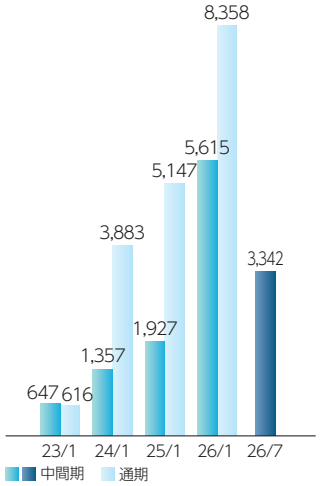
Financial Data 財務情報

連結財務ハイライト

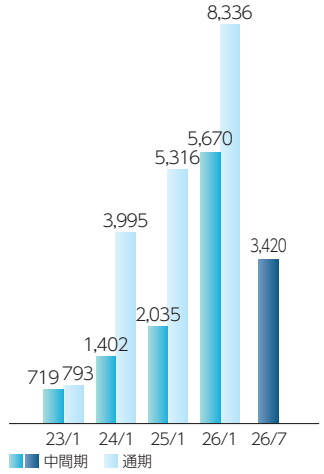
売上高 （単位：百万円）



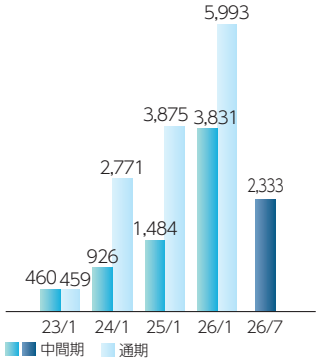
営業利益 （単位：百万円）



経常利益 （単位：百万円）



親会社株主に帰属する中間（当期）純利益 （単位：百万円）



1【事業主】株式会社エフ・ジェイエンターテインメントワークス【業務範囲】施設コンセプト企画、デザイン・設計、制作・施工
2【事業主】ロイヤルフードサービス株式会社【業務範囲】デザイン・設計、制作・施工
3【事業主】千葉市【業務範囲】施設コンセプト企画、展示企画、デザイン・設計、制作・施工、映像・ロゴ・キャラクター・ナビゲーション制作、プロジェクトマネジメント

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	前期末 2026年1月31日現在	当中間期末 2026年7月31日現在
流動資産	44,681	42,577
固定資産	11,043	11,828
流動負債	16,446	14,011
固定負債	1,613	2,088
純資産	37,665	38,305
総資産	55,725	54,405

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前中間期 自 2025年2月 1日 至 2025年7月31日	当中間期 自 2026年2月 1日 至 2026年7月31日
売上高	56,043	48,392
売上原価	44,558	38,712
売上総利益	11,485	9,680
営業利益	5,615	3,342
経常利益	5,670	3,420
親会社株主に帰属する中間純利益	3,831	2,333

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前中間期 自 2025年2月 1日 至 2025年7月31日	当中間期 自 2026年2月 1日 至 2026年7月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,469	△600
投資活動によるキャッシュ・フロー	62	△858
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,458	△1,797
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,275	14,332

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼
https://www.tanseisha.co.jp/ir/

スイスの高級時計見本市でグランドセイコーの世界観を訴求







「青の深度」をコンセプトに空間全体を一貫表現

毎年4月にスイス・ジュネーブで開催される高級時計見本市「ウォッチズ&ワンダーズ ジュネーブ」。今年も国際空港に隣接する会場内に約65のブランドがパビリオンを展開し、バイヤーやジャーナリストに向けて新作を発表しました。当社は同見本市にセイコーウオッチ様がグランドセイコーを初めて出展した2022年から展示エリアの空間設計をお手伝いし、「ウォッチズ&ワンダーズ ジュネーブ 2026」で5回目となります。

2026年のプロジェクトも例年同様前年の見本市終了の翌月から動き出し、1年かけてチームで取り組んだものです。今回、セイコーウオッチ様から3つのご要望をいただきました。1つ目は、2026年のハイライトモデルである小型ダイバーズウオッチ「Ushio 300 Diver」について、日本ならではの造形美と機構を分かりやすく伝えること。2つ目は、ブランドに受け継がれたクラフトマンシップについて、実演を交えて紹介すること。3つ目は、文字盤の意匠で日本の豊かな自然や季節の移ろい、製造地周辺の情景を表現したネイチャーダイヤルを訴求することでした。



そうした想いを当社メンバーが咀嚼し、2026年は小型ダイバーズウオッチの文字盤とグランドセイコーのブランドカラーから着想を得た「青の深度」をコンセプトに、空間全体を使った映像からハイライトモデルの演出造形、ウインドウ演出に至るまで一貫して展開することになりました。W18メートル×D13メートルのメインエリアの上方には、グランドセイコー独自の機構であるスプリングドライブの流れるような秒針の動きを球体のキネティックアート(動的芸術)で表現することで来場者の視線を引き寄せ、その下にはハイライトモデルを展示し、周りにデザイン・外装、機構、ダイヤルなどを解説するディスプレイを配置しました。

前年まではストーリーを抽象的に表現するような感性表現をメインにしていましたが、2026年は展示台や什器も含めた展示表現の深化に注力しました。壁面には職人によるケーシング、組立工程、針付け・植字・ケース研磨などの製造工程を視覚化し、モノ・情報・体験を組み合わせた展示でグランドセイコーの技術や歴史を伝え、洗練された感性と知性を世界へ発信しました。

当社が展示エリア全体を設計、現地会社との密な連携で進行

当社が展示エリア全体の設計・制作・設置までを一貫して手掛けており、床壁天井などの内装・造作に関しては現地施工会社が手掛けています。演出物や展示什器のさまざまな擦り合わせについては現地施工会社とリモートで頻繁に打ち合わせを重ね、強固な連携体制を構築しました。継続的にプロジェクトをお手伝いさせていただく中でコミュニケーションが深まり、図面の提出スピードが向上するなど、長期的なパートナーシップの強みが発揮されています。



多分野で蓄積したリソースを柔軟に活用

2026年につきましてはストーリーを伝える感性表現と展示物を見ていただく知性表現とのバランスがよく取れ、セイコーウオッチ様からも「過去一番の出来」と高いご評価をいただいています。今後の課題としては、クラフトマンシップ訴求の更なる深掘りが挙げられます。また、グランドセイコーのブランド表現は現状でも欧州勢に比肩していますが、より日本らしさを感じられるような演出を強め、更なる認知度向上に貢献してまいります。

当社にとって、お客さまの世界的な見本市への出展を継続的にお手伝いできることは大きな誇りであるとともに、最高峰の場に携わることで「ラグジュアリーとは何か」という知見を得られています。また、当プロジェクトは毎回テーマが変わるため、展示会でありながら、年によっては商業店舗の設計スキルや映像ディレクション、ウィンドウディスプレイの演出など、求められるスキルも異なってきます。つまり当社が多分野でさまざまなリソースを蓄積してきたからこそ実現できたものであり、他社にはない独自の提供価値に繋がっています。コロナ禍が収束した2023年ごろから日本企業の海外案件の引き合いや、海外企業の日本進出に伴うご相談が増えています。どのようなご要望にも応えられるように更に間口を広げ、グローバルプロジェクトの開拓を進めてまいります。

プロジェクトに携わったメンバー



(写真左から)

制作	工藤遼太郎
クリエイティブディレクター	猪瀬 恭志
営業	末柄由香里
海外推進担当	加納 弘之
デザインディレクター	竹島光志郎

Topics トピックス

品川本社が「WELL認証（v2）」最高ランクの「プラチナ」を取得しました

当社の品川本社において、人々の健康とウェルビーイングに焦点を当てた建築物の国際的な評価システム「WELL認証（v2）」における最高ランク「プラチナ」を取得しました。2025年8月に策定した「ウェルビーイング経営方針」の実践として、閉鎖を伴わない部分的な改装で、国内トップクラスの96点での認証取得を実現しました。国内最多タイとなる6項目の「イノベーション」に認定され、2025年にWELL認証に新設された「ニューロインクルージョン（多感覚デザイン）」項目で日本初となる加点を獲得しました。自社オフィスでの実践をモデルケースとし、多彩な個性を持つ人々が共に輝ける社会の実現に向け、戦略・企画から運営改善までを含めたトータルソリューションの実装を推進してまいります。



「B-OWND」がヴェネチア・ビエンナーレ2026公式サテライトイベントで企画展を開催しています

丹青社がサービスを提供するアート・工芸作品のプラットフォーム「B-OWND」は、ヴェネチア・ビエンナーレ2026の公式サテライトイベント「Personal Structures」に参加し、歴史的建造物パラッツォ・ベンボにて企画展を開催しています（会期：2026年5月9日～11月22日）。B-OWNDが全体のキュレーション／プロデュース、空間デザインを担い、日本の工芸をバックグラウンドに持つ6名のアーティストと1つのアートコレクティブ、特別協業として集英社マンガアートヘリテージを迎えた全7室の大規模な展示を展開。当社は、B-OWNDを通じて工芸アートの価値を再定義し、世界のアートシーンへ発信することで、文化の担い手の育成と産業の活性化への貢献を目指しています。本展示は、これまでの取り組みの集大成として、日本の美意識を起点とした新たな評価軸を世界へ提示する挑戦です。



ウェブサイトのご案内

積極的に情報開示を行っております。また、最新の統合報告書は2026年7月に公開しておりますので、当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



https://www.tanseisha.co.jp

Corporate Data/Stock Information 会社概要/株式の状況

会社概要（2026年7月31日現在）

商　号	株式会社丹青社
設　立	1949年10月14日
資本金	40億2,675万657円
従業員数	1,267名（連結1,673名）

役　員（2026年7月31日現在）

代表取締役社長	小林　統	社外取締役	板谷　敏正
取締役	森永　倫夫	取締役 常勤監査等委員	菅野　敦夫
取締役	深谷　徹	社外取締役 監査等委員	槇原耕太郎
取締役	津久井哲雄	社外取締役 監査等委員	保坂　理枝
取締役	野村　英司	社外取締役 監査等委員	武内瑠璃子

株式の状況（2026年7月31日現在）

株式の総数	
発行可能株式総数	187,200,000株
発行済株式総数	48,424,071株
株主数	31,459名

大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	5,638千株	11.7%
丹青社取引先持株会	1,917	3.9
第一生命保険株式会社	1,907	3.9
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	1,747	3.6
丹青社従業員持株会	1,592	3.3
日本生命保険相互会社	1,446	3.0
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	894	1.8
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	739	1.5
東京海上日動火災保険株式会社	647	1.3
株式会社テクノ菱和	643	1.3

※ 持株比率は、自己株式（318,501株）を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
配当金受領株主確定日	期末配当1月31日／中間配当７月31日
定時株主総会	毎年4月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 Tel.0120-232-711（通話料無料）
同郵送先	〒137-8081　新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所　プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　https://www.tanseisha.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。）

撮影：御園生大地、株式会社レベル9、栗原平

VEGETABLE OIL INK

株式会社丹青社
〒108-8220　東京都港区港南一丁目２番70号
Tel. 03(6455)8100（代表）
Fax. 03(6455)8220（代表）